



発行所  
西宮市角石町3-138  
甲陽学院同窓会  
電話 西宮(0798)71-4888番(代表)  
郵便番号 662  
編集人 高垣雄二郎  
印刷所  
株式会社 六甲出版  
神戸市灘区岩屋北町3丁目3番18号  
電話神戸 (078) 871-1234 (代)

同窓会専用電話  
0798-71-4888  
月・水・金曜のみ  
(同窓会に御用の方はこの電話を御利用下さい)

# 愈 日が迫る！

## 9月28日 母校創立80周年記念会員 総会には、是非とも出席しよう。

同窓会会長 高 垣 雄二郎

本年は恰も、我らの母校甲陽学院の記念すべき創立八十周年を迎えて、会員総会開催に当たり、昨年来、関係役員諸氏が着々とその準備を進めて参りました。既報の『甲陽だより』特集号のとおり、当日は法人役員・学校長を始め、現旧教職員先生に合せて多数の会員皆様の出席を得まして、盛大なる記念会員総会を開催することになりました。

なかでも、一昨年文化勲章をうけられた花房秀三郎(28回)さんを、ニューヨークより迎えての記念講演、その他シンポジウムに加えて、豪華賞品のあたる福引大会等の楽しい催しがございます。

どうか、皆様お誘い合わせ挙って出席し、かつて学んだ比類なき甲陽精神をもって、伝統に輝く、誇り高いわが甲陽学院を盛り上げましょう。

(15回)

### 総会次第

第一節  
総合司会 副会長 田村 眞也(36回)  
ファンファーレ 甲陽学院アンサンブル部  
新卒者歓迎入場

第二節  
開会の辞 副会長 平田 豊(22回)  
物故者へ黙禱  
祝 辞 會長 高垣雄二郎(15回)  
學校法人辰馬育英会理事長 辰馬 伸彦  
甲陽学院中学校高等学校校長 中村 泰三

第三節  
講演とシンポジウム  
開会の辞 副會長 守殿 貞夫(41回)  
講演「35年の海外における研究生活から」 花房秀三郎(28回)  
シンポジウム  
「われわれを育んだ懐かしい甲陽の原風景と21世紀の人間づくりに果たす役割を語る」  
〈間奏曲〉  
高口 恭行(40回)  
西村 貞一(45回)  
河内 厚郎(52回)  
北橋 健治(52回)  
西 和彦(55回)

第四節  
祝 宴  
開会の辞 副會長 尾山 啓二(35回)  
鏡開き  
乾 杯 辰馬本家酒造 社長 辰馬 章夫  
甲子園都ホテル  
学院歌斉唱  
閉会の辞 副會長 宗田 久雄(高商1回)  
閉会予定時刻 午後四時三〇分

第五節  
閉会の辞  
学院歌斉唱  
閉会の辞

# 「出思の當時」に寄せて

## 当時の思い出など

### 建内保興

私は昭和三年入学、八年卒業である。當時は、ニューヨーク株式市場における株暴落に端を発した世界経済恐慌への突入があり、我が国もその影響を受けて銀行の取り付け騒ぎや企業合理化の話が新聞紙上を賑わし、「大学は出たけれど」職は無し時代の時代であった。経済不況克服の手

段として、強引にも富国強兵策がとられたと思うが、昭和六年に満州事変が起こり、やがては悲惨極まる戦争へと突き進むことになった。私の中学時代は大東亜戦争突入の前駆的段階ということになる。そんな時代的背景の故か、大きな地声が取り柄の私は弁論部に入学した。十

数人の入学だったが卒業の時は三人が残った。二人は既に他界している。弁論部の練習場は放課後の生徒集会所である。この主催が忘れたが、大阪の中之島公会堂で全国中学校弁論大会が開催され、それに出席することになった。卵をハンカチに三個包んで持って行った。実力が発声に良いことである。声力以上の声を出そうと思ったが、腹の具合が悪くなり、演説どころではなくなった。練習場の隣に靴の修理小屋があり、そのオヤジがわざわざ応援に来て

くれるとのことで余計に無理をしたのである。演説は散々の出来だった。今でも、中学時代の思い出といえば、公会堂の真ん中に陣取って応援してくれた靴屋のオヤジの顔が目にしたと思う。実力以上のものを出そうと思っても、それは無理な相談だ。世間は私を京大弁論部出身という。私は甲陽中学弁論部出身である。京大に弁論部があるかどうか私は知らない。(12回)

## 少年老い易く

### 平田豊

私が甲陽中学校に入学したのは昭和十三年で、当時の校長は伊賀駒吉郎先生であった。

入学して間もなく、校長先生の講話があり甲陽十二訓を教えて頂いた。いたずら盛りの中学生にとっては、些か窮屈なものであったが、十二訓のうち第一の訓である「少年老い易く学成り難し」にはじまる七言

絶句の漢詩が印象深く心に残った。尤も、中学の一年生にとって、毎日の学生生活は青春の真只中であって、「一寸の光陰軽んず可からず」と云われても、大人になるまでの時間は無限にある様に思われていたし、「池塘春草の夢」が如何に儂いものであるかなどわかる筈もなかった。その後、社会に出て様々な経験を

積むに従って、はじめてこの漢詩の含む重みが分る様になった気がする。今、人並みに自適の生活を送る様になって、漸く「階前の梧葉既に秋声」という言葉の持つ意味が自然に理解出来る様になったと思う。戒めの言葉としてでなく、むしろ、人生為す可きことをやり遂げたあとの自足の思いとして受け止めたいと思う。

自扮装に工夫をこらした仮装行列の卒業式である。私の卒業した時代から五十年余り経って、若い人達の自己表現のあり方が、この様に変わって来たのかと、感慨無量であった。現在、甲陽学院の卒業生は一万五千名を数えるに至っている。時代の流れと共に、夫々が様々な思い出を甲陽の学生生活に有している筈であるが、共通した青春の原点をそこに見出したい。そして、今秋の八十周年記念総会に数多く集い合って、昔の思い出を語り合いたいものである。(22回)

## 母校八十周年に思う

### 尾山啓二

大正六(一九一七)年母校が創立され、本年は八十周年を迎えます。八十年を振り返る時、否応なしに我が国の八十年の歴史の光影が投影さ

れている様に思えるのです。大正十二(一九二三)年全国中等学校野球大会に優勝し、球場に最も近い学校の優勝として、その名を全

国に知らしめました。世は、大正モダニズム、大正ロマンの時代でした。そして昭和に入り、大恐慌、満州事変、支那事変、太平洋戦争と、軍靴が響く時代へと突入して行ったのです。時局の要請は、甲陽高商の設立、転じて工専となり、戦時色一色に彩られて行きました。数多くの卒業生の若い命が失われ、暗黒の数年間

した。そして敗戦。昭和二十二(一九四七)年学制改革が始まり、香檳園に中学校、甲子園に高校が誕生し、その名も甲陽学院となりましたが、高校校舎の一部が進駐軍に撤収されており、未だ戦後の残滓が溢れていました。やがて我が国は、高度経済成長時代に入り、東京オリンピック、大阪万博。全国で、高速道路や、ビ

# 同窓会副会長が語る「80周年

ル建設ラッシュとなり、母校も高速道路の騒音に追い立てられる様に、昭和五十三（一九七八）年に高校を角石町に移転したのです。そして二年半前には、思いもよらぬ阪神大震災。幸い母校の被害は最小限でした

## 創立八十周年に寄せて

田村 眞 也

が、多くの卒業生の命が失われ、その家族や、家屋に多大の傷跡を残しました。

毎年四季は、同じ様に移ろい過ぎて行く。しかし、卒業生一五、〇〇〇人余のそれぞれの歴史と人生

は、我が国の歴史の流れの光と影をそのまま活写している様に思えます。後三年余で二十一世紀です。我が甲陽は、初代校長伊賀駒吉郎先生の甲陽十二訓にある如く、「怠らず行かば千里の外も見ん、牛のあゆみの

よしおそくとも」の精神で、新しい世紀に向けて、一歩ずつ進まねばなりません。九月二十八日、八十周年。同窓生相集い、肩を組み合い高らかに、未来に向けて、校歌を歌おうではありませんか。（35回）

甲陽学院に勤務して二十七年、思ひ起こせば、北海道興部高校での教鞭を授けうって、母校へ呼び戻されたのは、大阪で万国博覧会が催された昭和四十五（一九七〇）年のことでした。丁度その頃、同窓会では大先輩の北村善一先生（7回）や中島久先生（22回）が中心となって、一回生の合田孝治氏・宮崎武男氏の協力を仰ぎながら、同窓会の組織作り

十七年までは学校長が同窓会長を兼任されていたようですが、三十八（一九六三）年から宮崎武男氏が同窓会長に就任し、四十七（一九七二）年からは原清氏（5回）が会長になり、その後二十年の間に副会長の中島久先生が補佐役として同窓会の組織作りで大活躍されてこられました。その間には、会則の制定や改定のための会合が何度も持たれ、まだまだ十分とは言えないまでも、現在の会則

が生まれました。また原会長亡き後、友國説郎氏（8回）が会長代行を務められてから会長に推挙され、平成六（一九九四）年から高垣雄二郎氏（15回）が会長に就任され現在に至っております。本年の創立八十周年記念会員総会を開催するに当たって、高垣会長は非常に積極的に準備委員会やその他の委員会に足を運ばれ、様々の指示や助言を賜りました。同窓会役員の皆様は、ご自身の本業を果たしながら同窓会諸行事の企画・運営を担当されており、そのご協力ぶりには心から感謝申し上げます。次第です。私自身は、授業やクラブ（野球部）活動顧問としての仕事

の合間に、同窓会行事に取り組み関係上、要領の悪さも手伝って、満足のない企画・運営が行えない場合が出て参ります。誠に申し訳のない次第です。幸いなことに、専務理事に同僚の大川貴史先生（55回）と今西昭先生（57回）を高垣会長が任命して下さり、大変心丈夫に感じております。

創立八十年間のうちその三分の一を甲陽に捧げて参りました経験を生かしながら、今後とも微力ながら、出来る限り同窓会の発展のために力を尽くして参る所存でおります。宜しくご協力賜りますようお願い申し上げます。（36回）

## 創立八十周年記念会員総会へのお誘い

守 殿 貞 夫

残暑厳しき砌、諸兄におかれましては益々ご清祥の段お慶び申し上げます。

さて、すでにご案内の通り、甲陽学院創立八十周年記念総会の日が間近となつてまいりました。九月二十八日（日）は、是非ともご出席いただきませう、心よりお願い申し上げます。昨今の世情をみますと、殺伐とし

た事件がマスコミを賑し、知と情のバランスを欠く若者の犯罪の増加が、切に憂慮されます。青年が正しく自己の生き甲斐、人生の目的を見いだし、前向きに努力するという動機づけの場として、中等教育の担う役割が今大きく問われているところであります。そのような中において、京阪神で最も古い伝統を誇る私どもの母校、

甲陽学院が八十周年を迎えましたことに、なお一層意義深いものを感じずる次第でございます。

本校の教育理念は、ひととしての礼節を知り規律を守るけじめを教える中にも、家庭的な情愛に支えられた包容力をもって各人の個性と才能を引きだし、社会に立っていく胆力と能力を培うという極めて人間性に富む高邁なものであると、理解しております。六年一貫教育でありながら、中学校と高校は離れており、それぞれがある意味で自主独立して、同世代の三学年が強い絆で和をもつ

て生活共同体を営んでいる形態は、本邦の英才教育の中では非常にユニークなものであり、伸びやかな個性が生まれる所以であろうと存じます。その多くの個性の中で、特に私どもの誇りというべき文化勲章を受章しておられるロックフェラー大学の花房教授（世界で初めて病遺伝子であるサーク遺伝子を発見の記念講演会も予定されています。どうしてもお仕事で不都合という方以外は、何卒ご出席いただき、自分たちを育ててくれた母校の思い出を語る楽しい一日としようではありませんか。（41回）

平成 8 年度 決 算 書

平成 9 年度 予 算 書

平成 9 年 3 月 26 日

(収入の部)

(支出の部)

(収入の部)

(支出の部)

科 目	決 算 額	予 算 額	差 引 額	科 目	決 算 額	予 算 額	差 引 額
会 費	4,831,000	5,500,000	△669,000	人件費	1,262,000	1,300,000	△38,000
本年度	4,230,000	4,900,000	△670,000	手 当	972,000	1,000,000	△28,000
入会金	601,000	600,000	21,000	夏冬手当	200,000	200,000	0
利子収入	110,317	500,000	△189,683	校 内 志	40,000	50,000	△10,000
H5年度版 会簿積算戻 入金	3,459,587	0	3,459,587	交通費	146,160	150,000	△3,840
基本金解約	0	1,000,000	△1,000,000	謝 儀 費	179,667	250,000	△70,333
繰越金	162,038	162,038	0	会議費	1,556,685	1,400,000	156,685
計	8,552,942	6,582,038	1,970,904	総 会	394,395	500,000	△105,605
				理 事 会	191,724	250,000	△58,276
				監 査 会	382,274	300,000	82,274
				委 員 会	581,692	350,000	231,692
				専 員 費	2,869,633	3,350,000	△480,367
				甲陽だより	592,250	700,000	△107,750
				郵 送 料	880,935	900,000	△19,065
				振替用紙	123,669	150,000	△26,400
				封 筒 代	66,950	150,000	△83,050
				宛名ラベル	0	300,000	△300,000
				総 会 費	529,451	500,000	29,451
				記念品代	676,467	650,000	26,467
				雑 費	204,719	370,000	△165,281
				研 修 費	120,600	120,600	0
				慶弔その他	0	100,000	△100,000
				給 養 料	79,719	100,000	△20,281
				雑 費	5,000	50,000	△45,000
				予 備 費	25,000	162,038	△137,038
				次年度繰越	2,309,458	2,309,458	0
				計	8,552,942	6,582,038	1,970,904

基 本 金  
内訳 経費 15口 18,350,000円

8) 同年会費会員名簿収支明細  
【収 入】 【支 出】  
広告料 1,500,000円 通信費等 77,261円  
差引残額 1,422,739円

平成 5 年度版会員名簿収支明細  
【収 入】 【支 出】  
基本金 5,000,000 年割代 11,949,997  
広告料 6,840,000 郵送料 1,690,038  
名簿代 6,686,210 その他 476,578  
計 18,526,210円 14,116,632円  
差引残額 4,409,578円

そのうち1,000,000円は平成7年度決算時に戻し入れた。

科 目	9 年 度	前 年 度	差 引 額	科 目	9 年 度	前 年 度	差 引 額
会 費	5,500,000	5,500,000	0	人件費	1,300,000	1,300,000	0
本年度	4,900,000	4,900,000	0	手 当	1,000,000	1,000,000	0
入会金	600,000	600,000	0	夏冬手当	200,000	200,000	0
利子収入	500,000	300,000	△200,000	校 内 志	50,000	50,000	0
基本金解約	500,000	1,000,000	△500,000	交通費	150,000	150,000	0
繰越金	2,309,458	182,038	2,127,420	謝 儀 費	750,000	250,000	500,000
計	8,509,458	6,982,038	1,527,420	会議費	1,400,000	1,400,000	0
				総 会	500,000	500,000	0
				理 事 会	250,000	250,000	0
				監 査 会	400,000	300,000	100,000
				委 員 会	250,000	350,000	△100,000
				専 員 費	4,350,000	3,350,000	1,000,000
				甲陽だより	1,200,000	700,000	500,000
				郵 送 料	1,400,000	900,000	500,000
				振替用紙	250,000	150,000	100,000
				封 筒 代	150,000	150,000	0
				宛名ラベル	300,000	300,000	0
				記念品代	650,000	650,000	0
				総 会 費	0	500,000	△500,000
				雑 費	370,000	370,000	0
				研 修 費	120,600	120,600	0
				慶弔その他	100,000	100,000	0
				給 養 料	100,000	100,000	0
				雑 費	50,000	50,000	0
				予 備 費	189,458	162,038	27,420
				計	8,509,458	6,982,038	1,527,420

訃 報

左記会員の逝去の報に接  
しました。謹んで哀悼の  
意を表します。

- 高野 俊男氏 (11回) 平成 9 年 2 月 逝去
- 三田 周氏 (12回) 平成 9 年 6 月 30 日 逝去
- 橋本 誠介氏 (12回) 平成 6 年 12 月 12 日 逝去
- 池永 龍平氏 (12回) 平成 7 年 7 月 逝去
- 原 秀夫氏 (13回) 平成 9 年 4 月 12 日 逝去
- 辻 一雄氏 (14回) 平成 9 年 1 月 13 日 逝去
- 高橋 敏男氏 (14回) 平成 6 年 9 月 21 日 逝去
- 越野 節夫氏 (14回) 平成 6 年 11 月 8 日 逝去
- 広瀬 二郎氏 (15回) 平成 8 年 4 月 末 逝去
- 山崎 義信氏 (15回) 平成 7 年 8 月 18 日 逝去
- 青山 勇氏 (16回) 平成 9 年 6 月 21 日 逝去
- 石原文次郎氏 (16回) 平成 6 年 2 月 2 日 逝去
- 三好鉄太郎氏 (16回) 平成 8 年 11 月 6 日 逝去
- 横田 正頼氏 (18回) 平成 9 年 4 月 5 日 逝去
- 角倉 八郎氏 (19回) 平成 9 年 1 月 7 日 逝去
- 高田 次郎氏 (20回) 平成 7 年 9 月 逝去
- 西村(大場)正範氏 (20回) 平成 8 年 6 月 14 日 逝去
- 小林 博氏 (20回) 平成 9 年 3 月 27 日 逝去
- 西川 弘氏 (21回) 平成 8 年 6 月 4 日 逝去
- 吉原 健氏 (22回) 平成 7 年 1 月 26 日 逝去
- 吉田新一郎氏 (25回) 平成 8 年 8 月 11 日 逝去
- 太田 仁志氏 (28回) 平成 8 年 6 月 17 日 逝去
- 北村 豊治氏 (33回) 平成 5 年 3 月 逝去
- 蔵田 雅彦氏 (47回) 平成 9 年 7 月 17 日 逝去
- 仙波 久明氏 (58回) 平成 8 年 6 月 25 日 逝去
- 多田 聡氏 (64回) 平成 9 年 7 月 逝去
- 竹森 哲士氏 (商 2 回) 平成 5 年 12 月 18 日 逝去
- 小原 英雄氏 (商 2 回) 平成 9 年 1 月 2 日 逝去
- 永瀬 輝男氏 (商 3 回) 平成 7 年 12 月 23 日 逝去
- 芝瀬 永一氏 (工 1 回) 平成 6 年 9 月 25 日 逝去
- 西本 嘉康氏 (工 2 回) 平成 8 年 10 月 22 日 逝去
- 渡辺 三郎氏 (旧職) 昭和 59 年 9 月 29 日 逝去
- 小嶋 進氏 (旧職) 平成 2 年 12 月 31 日 逝去
- 徳山 健三氏 (旧職) 平成 9 年 1 月 28 日 逝去
- 廣中 実三氏 (11回) 平成 8 年 7 月 18 日 逝去
- 清水 哲夫氏 (10回) 平成 8 年 3 月 30 日 逝去
- 福井 彬氏 (10回) 平成 7 年 1 月 17 日 逝去
- 川西 誠治氏 (10回) 平成 7 年 1 月 17 日 逝去
- 中村 正雄氏 (9回) 平成 8 年 3 月 7 日 逝去
- 小山 章氏 (9回) 平成 7 年 3 月 31 日 逝去
- 壹岐 健夫氏 (8回) 平成 9 年 8 月 10 日 逝去
- 立花 茂氏 (8回) 平成 9 年 5 月 24 日 逝去
- 橘 武雄氏 (7回) 平成 7 年 4 月 逝去
- 高田久右衛門氏 (5回) 平成 8 年 7 月 15 日 逝去
- 川廷善一郎氏 (3回) 平成 8 年 8 月 16 日 逝去
- 若林 光夫氏 (1回) 平成 9 年 2 月 21 日 逝去
- 山口 義治氏 (1回) 平成 9 年 2 月 7 日 逝去
- 土居信三郎氏 (1回) 平成 8 年 12 月 23 日 逝去
- 廣瀬 満直氏 (1回) 平成 7 年 10 月 2 日 逝去

# 会員だより

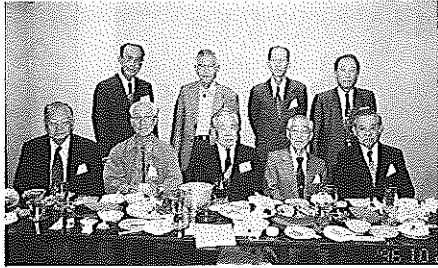
原稿は出来る限り400字詰原稿用紙一枚以内にして下さい。原則として原稿(写真)は返却いたしませんので御了承下さい。

各回の学年会・クラス会  
あるいはクラブのOB会な  
ど、同窓会事務局にその様  
子をご連絡いただいたもの  
の中から以下に数件掲載い  
たします。

## 15回

### 同窓会開催

秋たけなわの十月、三年  
ぶりの会合を大阪梅田ニ  
ュートウキョウで開催しまし  
た。出席者が少なかつたの  
は残念でしたが齢八十才が  
間近に迫っている十五回生  
としてはやむを得ない現実  
かと思えます。高垣同窓会  
長から甲陽同窓会の現状な  
どのお話を聞き、誠に懐かし  
い一刻を過ごしました。甲  
陽同窓会の発展を折念し再



会を約して終わりました。

(落合 記)  
出席者 藤山良一、鈴木貞夫、高垣雄二郎、佃 元治、西村祝善、日野茂一、飄野隆弘、湯原 真、落合 博  
以上九名

## 20回

### ミ二十六夜会総会

昭和十六年(一九四一)  
卒ということから「十六夜  
会」と名づけられた梅組の  
クラス会であったが、この  
会名を同年卒の総会名にと  
乞われて、以後は私達の会  
を「ミ二十六夜会」と改称  
し、毎年のように交流を深  
めている。

担任の朝田舞一先生が御  
健在の頃は、梅田近辺での  
集いを重ねて毎年御出席し  
て戴いていたが、その後は  
有志による「ミ二十六  
夜会」を奇数月に併せもつ  
て親交を深めているので、  
年に一度の総会の時にも、  
改めて名乗る必要もない遠  
慮のない会になっている。

今年(平成八年)は卒後  
五十五年になるので一泊と  
いう白井君の発案もあって、  
十一月二十一日、二十二  
の両日、紅葉の有馬温泉で  
の総会となった。寒気の到  
来が例年より少し早く、秀  
吉ゆかりの紅葉の名所瑞宝



寺町公園は、やや盛りは過  
ぎてはいたが、未だ晩秋の  
美しいたすまいを見せて  
いた。

現在の飽食の時代からは  
到底考えられないような食  
糧難のため、空腹を抱えて  
耐えた戦中派の集いでのお話  
らしいは、昔であれば、一  
世代を過ぎ去ろうとしてい  
る五十五年といった長い年  
月を経た過去のことになっ  
てしまっているのだが、何  
時しか当時の甲子園の時代  
に戻っていた。

この日は平日での一泊と  
いうこともあったのか、例  
年より参加者が少なく御夫  
人方を交えて十三名という  
例年の約半数の御出席では  
あったが、紅葉を愛で乍ら  
ゆつたりと有馬の湯につか  
り、家族的な会やかな雰  
囲気の中での総会となった。  
逆に一泊だからこそ参加  
し易かったと言われた遠来  
の栄君、竹野君の発言も大

変有り難いことであつた  
し、入学から教えれば丁度  
六十年度で、六十年といえは  
還暦になるといった発言も  
出たりして、忘れ得ぬ歓談  
の一夜となった。

宴会後はホテル内のカラ  
オケバーで楽しみ、翌朝、  
入湯後もう一度瑞宝寺町公  
園の紅葉を散策し、次の逢  
瀬を約しあつて自由解散と  
なった。(小山 記)

出席者 木村利雄、白井修  
三、栄 郁夫、竹野勝也、  
山本 勲、渡多利俊作、橋  
本伍郎、杉山準二、塩見  
清、小山 博  
他 御夫人三名(敬称略)

## 21回

### 橋会クラス会

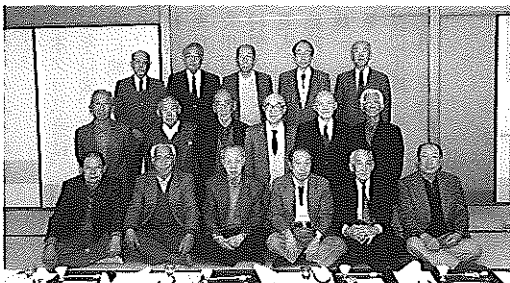
平成八年十一月十七日す  
っかりおなじみとなった宝  
塚市逆瀬川の料亭宝仙花に  
て、今年も橋会の集いをも  
つことができました。秋た  
けなわの晴天に恵まれた一  
日。会も二十四回を数え、  
久しぶりの面々も加えて十  
七名の参加者がありました  
た。これも、渡辺君のいつ  
に変わらぬ尽力のおかげと  
一同深く感謝しながら楽し  
い宴が始まりました。

昨年の会合では、神戸・  
阪神大震災の話題が中心と  
なり何となくしんみりとし  
た雰囲気でした。今年は、  
例年のように、懐かしい青  
春時代の思い出話から、近  
況報告まで様々な話題が飛

び交ううちに、予定の三時  
間はあつという間に過ぎて  
しまいました。

ただ、悲しいことに、橋  
会が毎年開催できた陰の功  
労者である渡辺君の奥様が  
他界されたことです。ここ  
に深い哀悼の念とともに感  
謝の言葉を捧げたいと思い  
ます。次年度も、お互いに  
元気で再会できることを念  
願しています。(高橋 記)

出席者は、写真、向かっ  
て左から  
一列目、井川、林、森岡、  
渡辺、筒井、福井  
二列目、稲葉、井本、一色、  
船越、樋口、遊佐  
三列目、入間田、高橋、西  
嶋、倉石、濱口



## 桜組会

平成七年は常会場のし亭  
が全壊判定などのために見  
送らざるを得なかつた恒例  
のクラス会を、二年ぶりに  
平成八年十一月十七日(土)  
の夕方、し亭飯店講食堂で  
開催しました。

遠方からの同窓は、付近  
の変わり様に驚きを、そし  
て被災地の同窓の無事の喜  
びを表しましたが、話が進  
むにつれていつもの和やか  
さに戻って、和氣あいあい  
の中に中々、そうして例に  
より難を免れた隣接のスナ  
ックに移って二次会のカラ  
オケへと続きました。

さて、今年平成九年はや  
はり十一月下旬の土曜夕  
方に開催を内定、その日の  
再会を約し名残りを惜しみ  
つつ閉会、解散しました。  
(出席者) 石丸、伊藤、越  
智、鍵本、加藤、木村、堀、  
極楽地、長村(長村 記)

## 22回

### 橋友会

昭和十八年卒業の橋組  
は、卒業五十周年記念旅行  
以来、毎年一泊旅行を続け  
ていますが、平成八年十一  
月一日・二日伊豆大島へ出  
掛けました。

## 会員だより

夫人三名を含む一行十三

会員だより



名は、熱海駅で東西が合流、四十分の船旅の後元町港に到着、三原山にすかかたなびく噴煙を眺めつつ大島温泉ホテルへ、ホテルの露天風呂からは、原生樹林の続く彼方に三原山が望まれ、自然の壮大さを目を見張りました。

美人アソコのサービスで《椿フォンデュ》をメインとする料理を満喫し、「アソコ椿は恋の花」を皮切りにカラオケ開始、宴は時を忘れて盛り上がりました。

翌日は定期観光バスで三原山山頂、大島公園、郷土芸館などを見物、再び船で熱海港へ帰り、再会を約して解散しました。

古希を過ぎた仲間の中には健康上参加できない者も多いのが残念ですが、出来

る限り会合を続けていきたいと思います。

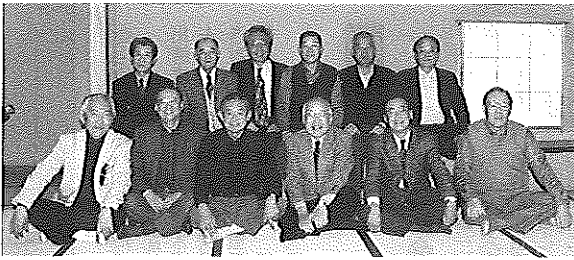
出席者は写真、向かって左から

一列目・藤岡、同夫人、横地夫人、酒井夫人、白岡二列目・清水、池田貞夫、横地、本莊、酒井、芦田、伊藤、池田善海

(酒井 記)  
追伸 同級の川村 昌君が死去されましたのでご報告します。

25回

桃組 (甲桃会)



▲平成 8 年 11 月 23 日 第 51 回甲桃会 於 箕面観光ホテル

紅葉たけなわのみのお観光ホテルにおいて第五十一回目の会合を行う。

出席者 後藤 昂、松岡泰三、齋藤和夫、松原一郎、長瀬 亘、行友正徳、山崎昌弘、岩井 洸、大塚雅也、岩崎陽一、池内龍雄、田中邦彦 (順不同)

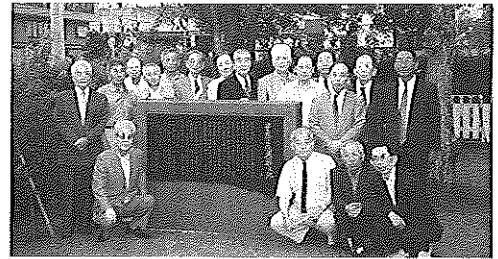
◎平成八年に死亡した級友故 亀井量太、故 田中桂三

25回

桜組クラス会

平成八年度の桜組クラス会を七月二十日(土)に甲子園都ホテルで開催しました。本年は、中学卒業者として卒業五十周年の年となるので、甲陽学院ゆかりの地でクラス会を開催する事にし、甲子園都ホテル敷地内に在る「甲陽学院跡地」記念碑を囲んで記念写真撮影後、ホテルの「浜風の間」でクラス会を開催しました。

本年は十九名の出席でありました。当初、参加予定者は二十二名と過去最大数を喜んで居りましたが、急な用件等で三名の方が不参加となりました。一方、近年体調が万全でなかった為、永らく出席されて居なかつた福富君が、久々に元気な姿を見せられると共に、渡辺君が陸軍少年航空隊に入隊される際に、クラスの全員が寄せ書きをした日章旗を、五十周年の想い出にと、わざわざ持参され



▲第 25 回卒 桜組クラス会 記念写真

ました。日章旗は半世紀の時間経過にも拘わらず丁寧に保管されて居たためか、寄せ書きの墨蹟は色鮮やかなものであり、署名者の一人一人の名前を読み上げると同時に、その消息が話題となり、三時間の宴もあつたと云う間に過ぎ去りました。最後は、恒例の如く校歌及び応援歌の大合唱で締めくくり、来年の再会を約束して散会しました。

又、瑞穂君が住職をして居られる尼崎の蝦江山常念寺が、阪神大震災で本堂及び庫裏等が半壊する被害に遭われ、其後、営々と復興に努力をして来られていたが、無事完工し、平成九年一月十八日日本堂に於いて、震災復興慶讃式典が盛大に営まれ、有志が参列し、祝福した事を、併せて報告しておきます。此の寺の本

堂及び庫裏は、数年前まで本クラス会の会場及び宿舍として度々使用されて頂き、クラス会会員としてゆかりのある建物でありました。

本クラス会は、昭和六十年以来、毎年七月末の週末に開催して居りますので、数多くの会員の参加を期待して居ります。

当日の出席者(十九名)  
大川四津雄 大内昭吾 河村都夫 三田健一朗 田代英人 富田礼記 中田恵之 錦織達郎 福富次郎 藤本健一 波々伯部憲作 宮原晃一 瑞穂光信 山本喜典 渡辺正雄 根本 博 余部光男 若松申一 安達正昭 (安達 記)

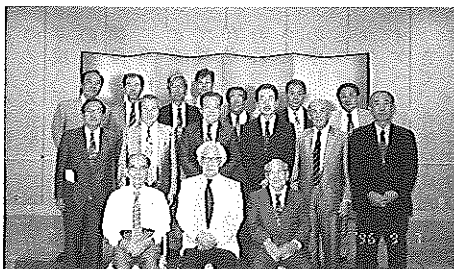
35回

新制中学第二期生 A 組クラス会

私たち昭和二十三年に甲陽学院の、当時は中学部という名称の学校に第二期生として入学しましたが、新制度の二年目ということもあったでしょう、高校を卒業するまでの六年間一度もクラスの編成が変わらなかつたという恐らく前代未聞の学年です。全学年規模の同窓会は、これまで何度か開催されたのですが、

A 組だけのクラス会というのは実に卒業以来初めてというものです。在学中万年クラス委員長、というよりそれを押し付け通したという方があつたという古川さんの呼びかけで、実は昨年還暦を記念してクラス会を開こうという呼びかけがあつたのですが、震災のためと、実行委員である有志の怠慢とで、とうとう一年ものびのびになつてしまいました。

平成八年九月七日午後、会場の甲子園都ホテルには、中学高校を通じて数学を教わつた、小河前校長、同じく社会科を教わつた、辰馬考古資料館館長の高井先生、高校で体育でしほられた信川先生がご出席下さ



会員だより

会員だより

いました。いずれもかなり  
のご高齢と拝見しました  
が、矍鑠として大変お元氣  
そうなお姿で安心できまし  
た。同窓生のほうはという  
と、震災の影響や、遠隔地  
に住まいするものが多く、  
十三名の参加と、ちよっと  
寂しい会場でしたが、高校  
三年になる前に関東へ転校  
して四十余年も一度も顔を  
合わせなかった大野隴さん  
がはるばる参加してくれ、  
大変盛り上がりました。

限られた時間ではありま  
したが、小人数の良さとい  
うのが、一人ひとりの現況  
報告や、在学時代の回想な  
ど、大変有意義に過ごせま  
した。今回の集まりのおか  
げで今まで連絡の取れなか  
った、途中で転校していっ  
た同窓生の消息が判明しま  
した。数年後にはこれらの  
懐かしい顔がそろってクラ  
ス全員が集まれることを期  
待したいとおもいます。

(沢井 記)

39回 学年同窓会報告

平成九年一月四日、三十  
九回生同窓会が四年ぶりに  
KKR Hotel OSAKA 曙の  
間で開催された。  
当日は好天に恵まれ、改  
装が成ったばかりの大阪城



の天守閣が正面に望まれる  
素晴らしい会場で、恩師の  
小河清麿先生、中島久先生、  
宮本茂先生、中島博先生、  
宮川秀一先生、藤野吉平先  
生、山口裕太郎先生のご臨  
席をいただき、正月早々に  
もかかわらず東京など遠方  
から駆けつけた者も含めて  
同窓生五十四名が久しぶり  
に旧交を温めた。  
多田昭次君の司会で午後  
二時過ぎから始められた会  
は、まず物故者への黙祷を  
捧げた。次いで世話人代表  
田村君の開会の挨拶、小河  
先生による乾杯の音頭、先  
生方のお祝辞があり、その

後、各自の近況報告、欠席  
者の近況紹介と続いた。各  
自の近況報告では、第二の  
職場で活躍している話も多  
く聞かれ、かつての紅顔の  
美少年達も五十路半ばを過  
ぎたことを実感させられ  
た。その間、会場では二年  
前の阪神淡路大震災におけ  
るお互いの無事を喜び合う  
光景も見られた。また、近  
況報告のハイライトは阪神  
タイガースの岩藤君で、阪  
神不振の原因、今年の順位  
について質問を皆から受け  
ていたが、その答えは書か  
ぬが花であろう。

ともあれ会場は四十年前  
にタイムスリップしたこと  
く大いに盛り上がり、あっ  
と言う間に予定時刻が過ぎ  
ぎ、次回(多分二十一世紀)  
の世話人代表をA組の混君  
に依頼し、再会を約して終  
了したのは予定時刻を大幅  
にオーバーした五時半過ぎ  
であった。  
最後に横谷君の一句、「熱  
かんや言うべき程の過去も  
なし」。(直場徳宥 記)

甲陽教育研究会

平成八年九月十五日「岸  
和田だんじり祭り」見物後  
貝塚市内の料亭「深川」に  
て第十六回の例会が開催さ  
れ、十六名が参加し、相談  
役の中島久先生もかけつけ  
て下さいました。  
同窓の中から教育関係者  
の集いとして「甲陽進学研



▲平成8年6月 魚釣り会で!!

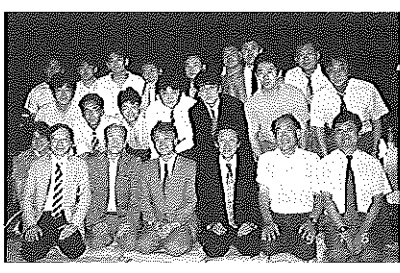
究会」の名で発足し、回を  
重ねて来ましたが、今回は  
会名も「甲陽教育研究会」  
と改め、今後は学校教育関  
係、塾関係及び関連業種  
の方々と更に呼びかけの輪  
を広げることにも満場一致  
しました。  
平成九年度は九月二十三  
日に行います。(前川 記)  
連絡先 千五九六 岸和田  
市土生町七二八 柏木康雄  
電話(073)261-2963

甲陽橋会 同窓会

甲陽橋会が事務局雑役を  
務めております松本でござ  
います。当会は甲陽学院高  
校を卒業後、京都府立医科  
大学に入学した諸兄の親睦  
会であります。言ってみれ  
ば「甲陽学院同窓会、京都  
府立医大支部」といったと  
ころでしょうか。  
二十年ちかく前に、四十  
三回卒の野条良彰先生(福  
井医大教授)が本学解剖学

教室の助手であった頃、甲  
陽出身の学生を自宅に集め  
て食事を振る舞ったことに  
端を発しております。当時  
の大学生はすべからず貧乏  
で、みかねた先生が欠食児  
童のとき学生に腹一杯メ  
シを食わせてやったのであ  
ります。ちなみにその当時  
の欠食児童が、今では病院  
長であったり、部長であつ  
たり、助教であったりする  
わけですが。

その後一時中断しており  
ましたが、有志が集まり年  
に一回の親睦会として少し  
ずつ形がまとまってまいり  
ました。そして昭和六十  
一年、京府医大の校名である  
「甲陽橋会」とし、三十七  
回卒の石原義紀先生(福井  
愛育病院院長)に会長をお  
願いしました。  
それ以来、毎年七月の初



旬に京都情緒満点の鴨川床  
に席を設け、親睦会をもつ  
ております。例年母校から  
恩師の先生をお迎えし、こ  
れまでに小河清麿前校長を  
はじめ昨年の松井義知先生  
まで、十名以上の先生にご  
出席頂けたことになりま  
す。会員はすでに七十名を  
超え、私も中堅会員になつ  
てしまったのかと感慨深い  
ものがありますが、医者の  
社会において、教授から院  
長・医長・研修医・学生ま  
で、この全てが全く損得勘  
定抜きで酒を飲める会と言  
うのは皆無と申し上げても  
よいでしょう。それこそが  
我が甲陽橋会の存続する所  
力であると、私は理解して  
おります。

「京府医大に行けば楽しい  
先輩がたくさん居て面倒を  
見てくれる、と学院の生徒  
に安心して進路指導でき  
る」  
お越し頂いた恩師の先生  
方が、みなさんお帰りの際  
にこう仰って下さいます。  
恩師のこの言葉が我々の最  
大の誇りであり、喜びであ  
ります。内輪で盛り上がり  
てまことに恐縮に存じます  
が、これも甲陽という小さ  
な社会に生まれた大きな榮  
しみであると言うところ  
です。本稿を了させて頂いた  
きます。  
(松本浩彦 六十回)

会員だより

# 創立80周年記念

# 会員総会の御案内

9月28日(日) 午後1時～ 於・甲子園都ホテル

日時 平成9年9月28日(日)

午後1時～4時30分

場所 甲子園都ホテル(旧校舎跡地)

甲陽の間・鳴尾の間

(阪神甲子園駅下車、西へ徒歩3分)

Tel 0798-48-1111

総会次第 第一面をご参照下さい。

会費 一般会員 一三、〇〇〇円

学生会員 五、〇〇〇円

同窓家族 五、〇〇〇円

新卒生(平成9年卒) 一、〇〇〇円

申込方法 同封の振替用紙で会費を振り込んで下さい。

下さい。振り込みを忘れていて間近

になって気が付かれた方は、同窓会

事務局まで必ず電話を入れてくださ

い。

問い合わせ先 甲陽学院同窓会事務局

〒662 西宮市角石町三一三三八

Tel 0798-171-4888

(月・水・金のみ)

※中学校・高等学校へのお問い合わせはこ

遠慮下さい。

※甲子園都ホテルへ総会当日又は前日に宿

泊を希望される方は、特別料金にてお泊

まりいただけます。ご希望の方は、9月

19日(金)までに同窓会事務局まで申し

込んで下さい。

## 会員総会にご寄贈いただいた福引景品(敬称略)

8月20日現在ご提供いただいた方は以下の通りです。それ以降にご提供いただいた分については会員総会当日にご披露いたします。

### 辰馬育英会

- 特撰300ml山田錦 120本(10ケース)
- 奈良漬(瓜) 50個
- 奈良漬(瓜・西瓜詰合せ) 50個

### 甲子園都ホテル

- 甲子園都ホテル宿泊券
- コーナースイート 1組(朝食付)
- ツインルーム 5組(＼)

### 日本エアシステム(高垣雄二郎・15回)

大阪-宮崎 往復航空券

### 富士写真フイルム(大村 力・31回)

- カメラ「エピオン10」 40台
- 爪みがきセット 50個

### 住友ゴム工業(大西久光・36回)

ゴルフボール3個入 20個

### アサヒビール薬品(岩城耕一郎・38回)

エピオス1800錠 60本

### サントリー(佐治信忠・45回)

- シャトーリオン(白) 3ケース
- シャトーリオン(赤) 3ケース

### サクラクレパス(西村貞一・45回)

シャープペンシル 70本

### 新日本海フェリー(入谷泰生・46回)

北海道(小樽)往復 特等乗船券(ペア)

### JR西日本(河内 清・48回)

JRオレンジカード  
銀製キーホルダー

### 尚、祝宴用に辰馬本家酒造より、

特撰4斗樽(36ℓ詰)×2

特撰1.8ℓ×20本

木樽 500個

をご寄贈いただいております。

## 80周年記念同窓会会員名簿刊行(送料込5,000円)

ご希望の方は、同封の振替用紙にてお申し込み下さい。

9月28日の会員総会会場でも予約を受け付けます。

なお、名簿発送は10月となる予定です。

※年会費の納入も  
お忘れなく!

同封の振替用紙にてよろしく  
お願いいたします。既に  
ご納入の方にも振替用紙を  
同封しています。失礼をお許し  
下さい。